

6/4(土) まいど！ 倫理号です。季節の変わり目を感じる今日この頃です。皆さんいかがお過ごしですか？「今週の倫理」の「これが良い」は毎々踏ん切ら率

お楽しみでしょう。経験にみま下さい

幸へ運ぶアホ一鳥

2022. 6. 4~6. 10

今週の

倫理

6月のテーマ | 万象肯定

1284号

毎月第一週に配信する「今週の倫理」では、倫理研究所第二代理事長・丸山竹秋（一九二一—一九九九）のこトバを掲載いたします。

商売上、どうしても無くてもならない資材の代金を、だまし取られてしまった男がいた。身内の信頼している人からの紹介なので、ついうっかり前金で渡してしまったのである。

約束の日をすぎても資材が入らない。催促しようと訪ねてゆくと、相手はいない。確かめたところ行方不明という。してやられた、と気づいた時はすでに遅し、それもかけがえのない大金なので、男は青くなつた。これで仕事はダメになった。初めたばかりだったのに……。

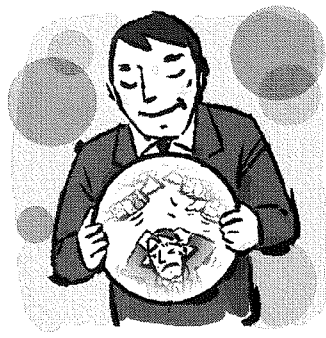
彼は観念した。一家心中まで考え、妻子にも引導を渡した。そのとき、ハッと頭にひらめいた。

どうせ死ぬのなら、死んだつもりでやる以外にない。だまされるべくしてだまされたのだ。「これがよい」のだ。すべて原因があつて結果があるのだから、大失敗も「これがよし」。

こう腹を決め、改めて妻と相談し、心を一つにして、やり直すことにした。その時に浮かんだのは、遠く離れたところで自動車会社を営んでいる親友のことだった。訳を話すと「よろしい。古いタイヤがたくさんあるし、その他便宜をはかつてあげよう」と、かなりの金額を融通してくれたの

大肯定と大否定

丸山竹秋



である。

「これがよい」は、もちろん、そのままでもせず、ボーツとしておればよいということではない。たとえ災害にあつても、田畑は耕さなければ荒地になつてしまふ。大金を取られ、ひどい目にあつても、ただ泣くだけで何もしなければ、飢え死にするだけである。「これがよし」、しかし、「断乎」として改善の人生を新しく踏み出すのだ」と前進しなければならぬ。「これでよいのか」と立ち上がらなければ、誰も応援はしない。やる気のない者に、誰が金を貸すのか。ガンになり、ただへコたれて、生活上の不自然な原因も取り去ろうとせず、医者にかかる気のない者は誰も助けまい。「これがよい」、しかし「これでよいのか」と人生の改善改良を求めて進む。この積極進取の気持ちとその実行があればこそ問題の解決に向かうことになるのだ。

思うようにならないところが、おもしろいのである。これら大肯定して、その上で「これでいいのかわ」「これではいけない」とさらに目標をたて希望を輝かせる。人はうまくいった時は誰でも「よかった」と喜ぶ。しかし、うまく運ばなかった時こそ「それがよい」と大肯定をして、その上で「これではいけない」と大否定をし、解決の道を見出だすようにつとめる。当然、口で言うほどやさしくないことが多いが、何と言おうと、向上への道は、これしかないのである。この大肯定と大否定が人生の大前進なのだ。(『選集』より)

え・城谷俊也

一般社団法人倫理研究所法人局

6月度一旬 挨拶しむとみ輝く一年生 小学校へ挨拶運動してまじり、オハヨウゴザル